



2 インストールと初期設定

この章では、本装置の設置(インストール)と初期設定の方法について説明します。

インストールの準備



警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない

インストールを開始する前に、次の情報を確認してください。

- 本装置のIPアドレス(リモート管理を使用する場合のみ)
- サーバのIPアドレスとポート番号
- 鍵/電子証明書：鍵と電子証明書の入手方法については、第3章を参照してください。
- ネットワーク・ケーブル(ストレート・ケーブルまたはクロス・ケーブルなど)(使用するケーブルのタイプについては、本章の「ネットワーク接続」の節を参照)。本装置をラックに設置する場合は、以下の器具が必要です。
- プラスドライバ
- ラックマウントねじ

設置方法：単体での設置とラックへの設置

本装置は、次の2とおりの方法で設置できます。

- ラックマウント・ブラケットを使って標準19インチラックに設置
- 冷却に十分な風通しのある平坦な場所に設置

ラックへの設置

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない
- 自分で分解・修理・改造はしない
- アース線をガス管につながらない
- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所に設置しない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 一人で部品の取り付けをしない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない
- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

**重要**

ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度(10℃~35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

ここでは、Express5800シリーズ用のラックへの取り付け手順について説明します。その他のラックへの搭載については、保守サービス会社にお問い合わせください。

本体をラックマウント方式で設置するときは、本体に添付のラックマウント(ブラケット2個とネジ4本)、ネジ(4本)、ナット(4個)を使用します。

1. ラックマウントのブラケット2個を用意し、それぞれの取り付け穴(各2個)にラックマウントに添付のネジを差し込みます。
2. 本体の両側面にラックマウントのブラケットを1個ずつ取り付けます。本装置の前面付近にある取り付け穴にブラケットの取り付け穴を合わせ、手順1で差し込んでおいたネジで本体に固定します。ブラケットには円形の取り付け穴と楕円形の取り付け穴がありますが、本体への取り付け用には円形穴の方を、ラックには楕円形穴の方を使用します。

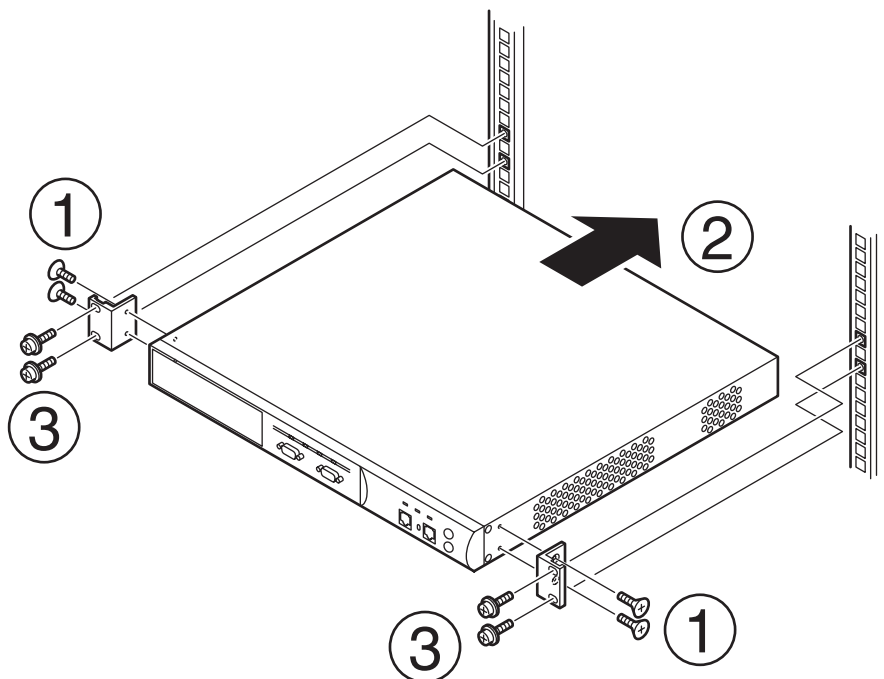


図2-1 取り付けブラケットの向きとラックへの取り付け

3. 本体を19インチラック上に設置し、ブラケットをラックに固定します。ここでは、ブラケット前面にある楕円形の取り付けを使用します。

単体での設置

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

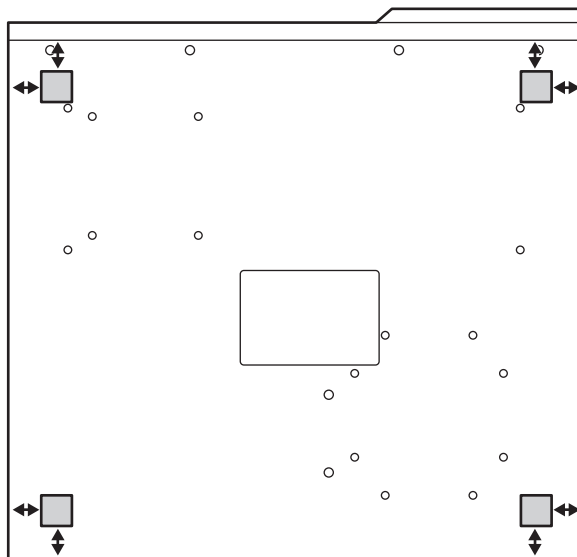
- 指定以外の場所に設置しない

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本装置を設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインタフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

1. 付属の粘着ゴム足を装置底面に取り付けます。

装置底面



◀▶印は10mmの幅を表します。

2. 本体を平坦な場所に設置し、本体の周囲のエアフローがよいことを確認します。本体は、周囲に2.54cm(1インチ)以上のすきまができるようにしてください。

ネットワーク接続



両方のポートを同じネットワークセグメント(同じハブまたはスイッチ)に接続しないでください。同じネットワークセグメントに接続すると、フィードバックループが形成され、ネットワーク帯域幅に悪影響が生じます。

1. 本書の付録Aを参照して、ネットワーク側/サーバ側ポートそれぞれに適切なケーブルを装置に接続します。
2. 付属の電源ケーブルを本体の背面に接続します(電源スイッチはありません)。通常の状態では、約30秒ほどの起動時間を必要とします。起動が完了すると、本体のPower LEDが点灯します(Power LEDが点灯しない場合は、第9章の「トラブルシューティングと装置交換」を参照してください)。
3. Inline LEDが点灯も点滅もしない場合は、Bypassスイッチを押します。
4. この段階で、Network LEDおよびServer LEDがいずれも点灯しない場合は、第9章の「トラブルシューティングと装置交換」を参照してください。

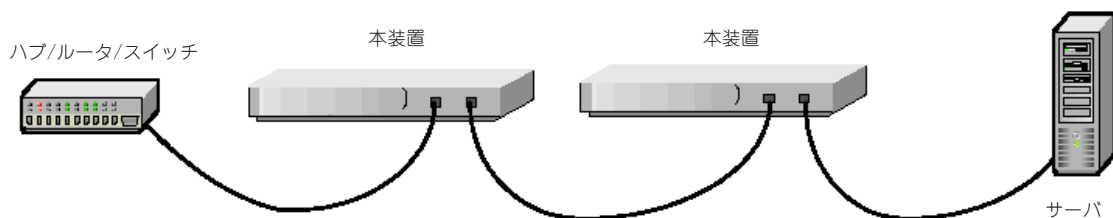


図2-2 ケーブル接続

ステータスの確認

「PCの初期設定」の節に進む前に、本装置が正常に接続されているかどうか確認してください。

Network Link LEDとServer Link LED

Network Link LEDとServer Link LEDが両方とも点灯していることを確認してください。一方または両方のLEDが点灯していない場合は、この章の「トラブルシューティング」を参照してください。

Inline LED

Inline LEDが点滅している場合は、システムがフェイルセーフ・モードでオンラインになっていることを示します。この章の「トラブルシューティング」または本書の付録B「障害/バイパス・モード」を参照してください。

管理ターミナルの接続

PC上で、ハイパーターミナルなどの端末エミュレーションを実行します。以下の手順は、ハイパーターミナルについて説明したものです。他の端末をご使用の場合は、手順が異なります。

1. 本体のシリアル・ポート(左側の「Console」と表記されている方)と、任意の端末(ここでは、Windows ハイパーターミナルを稼動するPCを想定します)のシリアル・ポートを本装置に付属のシリアル・ケーブルを使用して接続します。

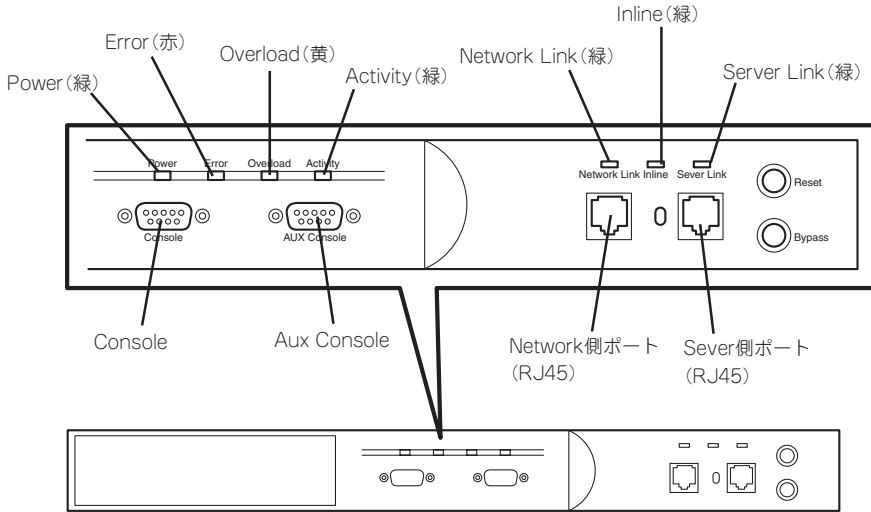


図2-3 フロントパネル上のコネクタおよびLED

2. 接続の設定ウィンドウの名前フィールドに適切な名前(例えば、"Configura-tion")を入力し、OKをクリックします。接続の設定ダイアログボックスが表示されます。
3. 接続方法フィールドの COM1へダイレクトを選択します。COM1以外を使用する場合は、PCと本装置の接続に使用しているシリアルポートを選択します。
4. OKをクリックします。COM1のプロパティウィンドウが表示されます。ここに表示される値を9600、8、なし、1、なしと設定します。
5. OKをクリックします。

ハイパーターミナルの貼り付け操作

ハイパーターミナルを使用する場合は、以下のように設定を変更する必要があります。

1. ファイルメニューで、プロパティを選択します。
2. 設定タブをクリックします。
3. ASCII設定ボタンをクリックします。
4. デイレイ(行)およびデイレイ(文字)の値を、0から1msec以上に設定します。
5. OKを2回クリックして、設定を終了します。

これで、本装置の基本的な設定が完了しました。実際の構成に合わせてさらに本装置を設定するには、第3章「操作の基本」または第4章「設定例」に進んでください。

トラブルシューティング

Server側LEDとNetwork側LED

ストレート・ケーブルとクロス・ケーブルのどちらを使用しても、Network LEDまたはServer LEDが点灯しない場合は、ネットワーク上の他の箇所に問題があります。本装置の周囲の配線を確認してください。

Inline LED

フェイルスルー・スイッチを使用して、障害発生時の動作を制御できます。フェイルスルー・スイッチは、NetworkコネクタとServerコネクタの間にあります。小さなドライバがクリップを使用して、スイッチを操作できます。スイッチの設定には、次の2つのオプションがあります。

- トラフィックが何も処理されずに本装置を通過するようにする(フェイルスルー・モード。Inline LEDは点灯します)。
- 本装置を介したトラフィックの流れを完全にブロックする(フェイルセーフ・モード。Inline LEDは点滅します)。

本書の付録BにすべてのLED表示の意味を示す表を記載しています。参照してください。

